

# 南アルプス市立豊小学校 令和4年度前期学校関係者評価書

令和4年9月28日  
豊小学校学校関係者評価委員会  
委員長 梅本澄雄



## 【第1回学校関係者評価委員会】

- 1 実施日 令和4年9月16日
- 2 会場 豊小学校相談室
- 3 参加者

### (1) 学校関係者評価委員

No.	氏名	役職	備考
1	五味 克明	豊地区自治会会長	
2	齊藤 尚子	元本校校長	
3	梅本 澄雄	豊地区教育振興会会長・元本校校長	委員長
4	津久井 豊徳	元市教育委員・元校長（櫛形中学校）	
5	吹野 武文	豊地区主任児童委員	副委員長
6	村松 雄太	P T A会長（保護者代表）	

### (2) 学校職員（3名）

No.	氏名	役職	備考
1	名取 広行	校長	本校在籍4年目
2	横山 啓二	教頭	本校在籍2年目／事務局
3	上野 中	教務主任	本校在籍3年目

## 4 学校から提案された内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 豊小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

## 5 協議内容・意見

### ○豊小学校前期自己評価書に対する考察

（教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証）

#### (1) 学校経営・組織について

- ・「わたしは学校の授業が分かる」については90%、「わたしは、授業中に自分の考えを伝えていく」については80%と、昨年度より伸びている。授業は学校生活の大半を占めるものである。その授業が分かれば、学校が楽しいものになる。だが、「分からない、楽しくない」という子もいる。そういう子がそのまま学年が上がっていったら大変である。「一」しか分からない子が、「二」分かるようになるだけでも、子どもは変わると思う。全員を「八」や「十」にするだけでなく、一人の「一」を「二」にする、それが毎時間ではなく、週に一回、いや月に一回でも「わかった」というものがあってほしい。とてもよくがんばっている。

- ・小さなことでも「分かる」ということは自信につながる。全体だけでなく、個々を見取り、小さな伸びを認めてあげたい。
- ・学習面だけでなく、生活のなかで、掃除や係など、そういったところでも褒めてほしい。多忙の中ではあるが、子ども一人一人の良さを認めることを大切にしてほしい。

## (2) 学習指導について

- ・「豊小学校学びプラン」の取組が地道に積み重ねられており、改善されてきていることがわかる。自己肯定感も高まっているのではないだろうか。ICTについては、授業の中でどのようにに活用していくのかを、教師は学んでいかなければならない。機器の操作等において苦手意識もっている教員もいるだろうが、努力して行ってほしい。
- ・授業が記憶に残るのは、教師のやり方にかかってくる。あの先生の授業は「おもしろい」と思ってもらえるような指導方法があるといい。教師の笑顔・表情などで、魅力ある授業を行ってほしい。
- ・好きなものは分かる、嫌いなものは分からない。「わたしは学校の授業が分かる」というのは、科目による好き嫌いもあるので、くくりが大きく判断しづらいところもあるかと思う。子どもたちの得意なところを伸ばして行ってほしい。

## (3) 生徒指導・生活指導について

- ・教職員がよく児童を見ている。課題が見つかったときには早期解決に取り組んでいるようだ。また、担任や担当が一人で抱えるのではなく、教師間のコミュニケーションがとれており、組織として対応できている。
- ・ある子どもが困っていることを聞いた。そのことを学校に相談すると、すぐに対応してくれた。校内での連携ができている。子どもへの対応も素晴らしいし、保護者に対しても、細やかなところまで対応してくれていて、立派である。スピーディーであることも良い。

## (5) 小中一貫教育について

- ・橿形中学校区小中一貫教育の「Teacher's Note」を読ませてもらった。教師が何回も研究をして、「橿形から、世界に羽ばたき未来を拓くあやめっ子」を自分のものにしながら子どもに向かっていることが読み取れた。橿形中学校区の子どもが伸びていくためには、とてもよい手法である。教師にとっては厳しい面もあるだろうが、子どもにはとてもよいものになっている。

## (6) その他について

- ・「時間外在校等時間（勤務時間が月に80時間を超えるということは、1日あたり3時間の計算になる。これは厳しくみていきたい。教師の仕事は切りがないところがあるけれども、視野を広げ考え方を変えて行ってほしい。家庭も大切にしてほしい。男女にかかわらず時間を守ってほしい。管理職が個々に声をかけたり、いろいろな工夫をしたりするなかで負担を減らしてほしい。子どものためにやってしまうところがあり、熱心な姿に感動するが、心身ともに健全な子どもたちを育てるためには教師も心身ともに健全であってほしい。